

KANTOU

かんとう



特集Ⅰ／藤川新理事長と各委員長の座談会
特集Ⅱ／古紙屋の現場で働く女性の座談会
■六地区懇談会 が岡山で開催

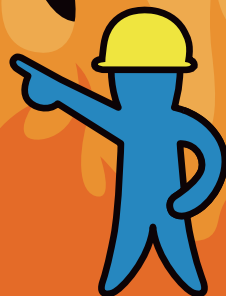
秋号

令和6年 防火月間

混入注意



リチウムイオン電池



ポスターの
ダウンロードは
こちら



全国製紙原料商工組合連合会

ごみ処理現場での火災 多発
リチウムイオン電池から発火、延焼

ごみ分別の誤りによって、ごみ収集車やごみ処理関連施設から発火する火災が多く発生している。発火源としてリチウムイオン電池が急増しており、消防庁では「不用品を処分する際は、各市区町村が指定するごみの分別ルールを確認してほしい」と注意を呼びかけている。

▼2面11年間1万件超…自治体対策に苦慮／東京都「リチウムイオン電池捨てちゃダメ」プロジェクト始動



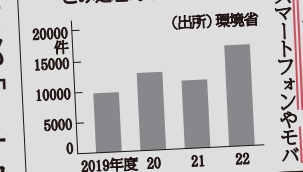
「リチウムイオン」事故、後を断たず

理場苦慮、自治体で直接回収も

▼1面参照
リチウムイオン電池が原因で起きたとされる発火事故は2022年度に1万6千件を超え、火災により一部稼働停止に追い込まれたごみ処理場もある。

東京消防庁によると、23年に管内で起きたリチウムイオン電池による発火事故(204件)のうち、37件はごみ収集車やごみ処理関連施設で発生。19年(9件)と比べると約4倍で、24年も1~6月の速報値で12件発生している。

同様の発火事故は全国でも増えており、環境省によると22年度に1万6517件と、19年度(9732件)の約1.7倍だった。



出力で小型化しやすいたためスマートフォンやモバイルバッテリー、電子タバコ、空調機などで使われ、強い圧力や衝撃でショートし発火する恐れがある。各自治体では公共施設などに回収ボックスを設けて廃棄を呼びかけているが、消費者に周知されているとは言い難く、ごみ処理業務への影響は深刻だ。

県市のごみ処理施設では6月、ごみに混ざったリチウムイオン電池が原因とみられる大規模火災が発生。ごみを運ぶベルトコンベヤーや金属を分別する機械が燃えた。

国立環境研究所の***県***市***町で不燃ごみの回収をしていた収集運搬車内において、リチウムイオン電池が発火。即座に作業員が消火器で消火し、けが人はいなかった。

作業員の男性は「ごみの中から黒い煙が見えた後、炎が上がった。爆発していたら大けがになっていた」と話しており、収集車から取り出されたリチウムイオン電池も真っ黒に焼け焦げ、原形が分からないほど変形していたという。

同市ごみ収集課によると、電池は他の不燃ごみと一緒に袋に入った状態で捨てられていたとのこと。「1つずつ袋の中まで確認できない。小型の機器に内蔵されていることが多く認識しにくい。作業員や周辺住民の命に関わるかもしれない」と呼びかけている。

相次ぐリチウムイオン電池の火災
作業員、住民にも危険が

巻頭言

スポーツ、政治の宴の後

7月26日から8月11日まで行われたパリオリンピックで日本の獲得メダル数は海外開催大会では歴代最高となりました。

柔道の阿部詩選手が2回戦で破れ、号泣していたシーンやゴルフでは松山英樹が惜しくも3位となったけれども銅メダルを獲得して本当にうれしそうな笑顔で喜んでいた姿など印象的でした。4年に一度のオリンピックだからこそ起きうる感動のシーンが見られます。そうした催しが紙の払い出しの増加に繋がらない、そういう時代になりました。それでもオリンピック、4年後のロサンゼルス大会も楽しみです。

4年に一回といえば自民党の総裁選が9月に行われます（執筆時点は9月3日）。発行される頃にはすでに決まっており、政治不信を払拭して日本の将来を見据えた政治を行ってもらうことを期待しております。

また、アメリカでは11月に大統領選が行われる予定であり、当初は「ほぼトラ」とか「確トラ」とか言われていましたが、9月2日現在ではハリス副大統領がややリードと言われております。あまり波風を立ててもらいたくないと考えております。

さて、我が業界であります。

7月末、日銀は追加で政策金利を0.25%程度



関東製紙原料直納商工組合
理事長

藤川 達郎

に上昇させ、今後も経済物価が引き続き上昇するのであれば政策金利を上げていくと発表しました。その結果160円だった為替が一時は141円台まで円高に進み、現在は円安方向（9月3日現在146円台）で落ち着いておりますが、されど為替の乱高下は困ったものです。

ご案内の通り、関東商組の在庫実績を見ますと昨年7月以降適正水準が続きましたが、今年2月以降は適正在庫率を割っている状況が続いております。段古紙に至っては2月以降一桁台の極端に低い在庫率が続いて現在に至ります。

秋以降、製紙さんの操業があがって需給ギャップが広がり車間距離が狭まることのないよう、理事会等で意思疎通を行っていきたいと考えます。組合員各位のご理解を是非とも頂きたくよろしくお願い申し上げます。

関東商組 理事会報告

令和6年度 第3回 理事会報告

令和6年6月21日（金）15:00～16:45

於 組合会議室

出席…22名 理事：21名 監事：1名

冒頭、(公財)古紙再生促進センター中田氏より、創立50周年記念シンポジウムの紹介及び協力依頼と理事長の挨拶があった。

1. 古紙持ち去り関係

(1) GPS 追跡調査実施状況

正規ルート1件。(4月理事会から本理事会の間)

(2) 持ち去り禁止法令制定の動き

古紙持ち去り意見交換会事務局より新法の骨子案と秋に条文化を目指していると連絡があった。

2. 各支部市況報告

(記載省略)

3. 物流の2024年問題への対応

2023年12月の全原連理事会において「物流の2024年問題に関する最終取りまとめ」に掲げる項目について地域特性を踏まえな

がら各地域組合が主体となって下記の手順で取組むこととなった。

・各課題について実態を把握し、対応策を検討する。

・共通して取り組むべき課題が生じた場合には全原連特別委員会へ上程する。

4. 東京都中小企業団体中央会会長表彰の推薦

中田章理事、栗原正光理事を推薦することが決定した。

5. 集団回収感謝状及び特別活動賞贈呈団体の推薦

各支部の担当者は推薦団体の活動状況調書を8月30日までに事務局へ送信するように連絡をお願いした。

6. 商工中金株式の購入

商工中金の政府保有株が一般競争入札により売却される。商工中金に預けている定期預金を充てて株式を追加購入することが承認された。

かんとう No.226 目次

編集人の後記	30
三紙会TWEET	29
新社長紹介	28
働く女性の座談会	
古紙屋の現場で	25
特集Ⅱ	
各委員長の座談会	
藤川新理事長と	
特集Ⅰ	12
六地区懇談会	9
三紙会定例会報告	5
関東商組理事会報告	2
巻頭言	1



表紙写真

北鎌倉の円覚寺の紅葉です。

1282(弘安5)年に鎌倉幕府の8代北条時宗が創建した禅宗の寺院です。蒙古襲来による殉死者を、敵味方の区別なく平等に弔うために健立を発願。鎌倉五山のこの寺院内は妙香池・白鷺池などが美しく、国の名勝に指定されています。異民族間の戦争でも日本の武将は尊厳を大切にしました。

渉外広報・IT委員会 相談役 須長利行

7. 委員会等の管掌

下記の通り管掌が決定した。

- ・需給委員会 山室新太郎理事
- ・上物・家庭紙問題担当 上田晴健副理事長

8. (公財)古紙再生促進センター 創立 50 周年記念シンポジウム参加者数の確保

古紙センターよりシンポジウムへの参加協力の依頼があった。

事務局から組合員へ案内を発信する。

9. 各会議報告

(1) 総務財務委員会 (6 月 14 日開催)

今期の収支見込、来期の予算についての確認を行った。

(2) 正副理事長会 (6 月 14 日開催)

(3) 総合運営委員会 (6 月 14 日開催)

10. 近代化推進委員会報告

(1) 経営革新委員会 (5 月 9 日・6 月 11 日開催)

- ・段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った。コンテナが不足して輸出がし辛くなっている。
- ・古紙品質に関わるものとして簡単に切れるラミネートフィルム付印刷が最近ある。

(2) 安全防災委員会

- ・女性活躍、雇用促進につながるように、現場で働く女性の座談会を 7 月 10 日に開催する。

(3) 需給委員会 (5 月 28 日開催)

- ・見積もり合わせは 6 月の段ボールは台湾向けで成立した。7 月分は 6 月 25 日に決定する。
- ・トーチンターナショナルから見積もり合わせの参加に必要な書類を受理した。5 月分の見積もり合わせから正式加入となった。

(4) 三紙会 (4 月 30 日・5 月 29 日開催)

	4 月	
	前月比	前年比
段ボール	102.6%	103.9%
新聞	101.2%	91.2%
雑誌	103.5%	98.4%

	5 月	
	前月比	前年比
段ボール	96.0%	100.8%
新聞	93.9%	90.2%
雑誌	87.8%	97.7%

7 月 18 日中国地区で六地区懇談会を開催する。

(5) 渉外広報・IT 委員会

かんとう編集部会 (6 月 12 日開催)

かんとう 225 号の校正会議、226 号の企画会議を行った。

11. その他

各種統計資料

1. 関東商組 32 社古紙在庫月別報告書 (2024 年 4・5 月)
2. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ (2024 年 3・4 月)
3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報 (2024 年 4 月)

◎次回開催 令和 6 年 7 月 19 日(金) 15:00 ~
場所 組合会議室

令和 6 年度 第 4 回 理事会報告

令和 6 年 7 月 19 日 (金) 15:00 ~ 16:40

於 組合会議室

出席…24 名 理事：23 名 監事：1 名

1. 古紙持ち去り関係

(1) GPS 追跡調査実施状況

持ち去り 1 件 (さいたま市)。(6 月理事会〈6/21〉～本理事会〈7/19〉)

2. 各支部市況報告

(記載省略)

3. 持続可能な経営の推進

基礎データを収集し、9 月に中間発表する。
来年度から行動に移す。

4. 各会議報告

(1) 総務財務委員会 (7 月 11 日開催)

第一四半期の収支状況を報告した。

- (2) 正副理事長・委員長合同会議（7月11日開催）

5. 近代化推進委員会報告

- (1) 経営革新委員会（7月12日開催）
段ボール原紙需給速報、古紙輸出実績の資料を基に意見交換を行った。組合のデータベースを構築する。
- (2) 安全防災委員会（7月2日開催）
ベアラメーカーから安全補助 AI カメラの説明があった。「古紙ヤードの現場で働く女性の座談会」を行った。
- (3) 需給委員会（6月25日開催）
7月の段ボール見積もり合わせは台湾向けで成立した。国内外の市況報告を行った。
- (4) 三紙会

	6 月	
	前月比	前年比
段ボール	96.5%	98.0%
新聞	96.1%	90.8%
雑誌	91.1%	95.1%

- (5) 渉外広報・IT 委員会

6. その他

- (1) 古紙センター創立50周年記念行事参加申込者数 38社92人
- (2) 事務局夏季休暇 8/13（火）～8/15（木）

各種統計資料

- 1. 関東商組 32社古紙在庫月別報告書（2024年6月）
- 2. 財務貿易統計 古紙輸出まとめ（2024年5月）
- 3. 日本製紙連合会 紙・板紙需給速報（2024年5月）
- 4. 日本製紙連合会 紙・板紙品種別生産・出荷・在庫高表（2024年5月）

◎次回開催 令和6年9月24日(火) 15:00～
場所 組合会議室

(8月 休会)

省エネペーラー誕生

SW770 HEシリーズ

HIGH SPEED, HIGH PRESSURE
AND ENERGY SAVING

契約電力DOWN!!

消費電力
25%
以上削減!!

消費電力DOWN!!



昭 和

株式会社 昭 和

本社 〒134-0091 東京都江戸川区船場2丁目23番21号
http://www.showa-press.co.jp 電話 03-3689-0303



WorkVision
Creating Value for The Future

お問い合わせ先
ビジネスソリューション営業第一部
営業担当：柿崎 真佳
TEL: 03-4233-0945 FAX: 03-5463-1138
*旧社名 東芝ソリューション販売株式会社
2019年7月1日より社名変更となりました。

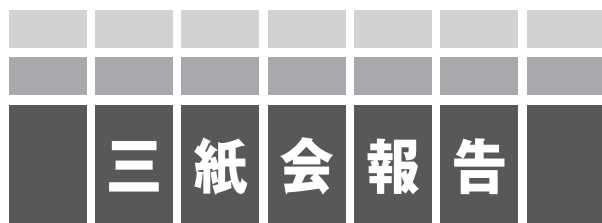
システムは「所有」から「利用」へ！

リサイクルシステム
クラウド版リリース

シンプルで
即戦力！

セキュリティと
災害に強い！

サーバ購入
・管理不要！



令和 6 年度 6 月 定例会

日 時：令和 6 年 6 月 24 日(月)

15 時 30 分～17 時 00 分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：新井 英樹・新井紙材(株)

川又 修・(株)新井商店

報告者：新井 英樹・新井紙材(株)

出席社：17 社

【令和 6 年 5 月

裾物主要三品仕入実績報告 (34 社)】

[段ボール] 前月比 96.0% 前年比 100.8%

[新 聞] 前月比 93.9% 前年比 90.2%

[雑 誌] 前月比 87.8% 前年比 97.7%

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

平均単価：段ボール…10.23 円、新聞…12.49 円、雑誌…4.73 円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告 (5 月積み)

[NBKP] \$ 価格 945 前月比 + \$ 50

[LBKP] \$ 価格 805 ～ 855 前月比 + \$ 30

[総括] 欧米マーケット、中国マーケットともに価格が上昇した。欧米マーケットでは家庭紙を中心に堅調な状況が続いている。中東の混乱に伴う紅海危機のため中国からの輸入紙が減少し欧州での紙生産が増えていることや、フィンランドの運輸労働ストライキは 4 月 8 日に終了したものの未だ影響が残っている等の要因でパルプ需給は引き続きタイトに推移

している。北米マーケットでも需要は好調に推移しており、パルプ価格の上昇を製品価格へ転嫁できている。一方、中国マーケットでは、紙・板紙の需要が低迷している。そのため、パルプ価格の上昇を製品価格へ転嫁することが困難な状況にあり、中小製紙メーカーを中心に稼働率が下がっている。

〈NBKP〉前月比 \$ 50 値上げの \$ 945 で決着した。中国向け価格は欧米向け価格より安価となっているため、サプライヤーは中国ユーザーに対し強気の価格交渉を行い、中国向け価格も上昇した。しかし、中国の紙・板紙の需要は低迷しており、製紙会社の稼働率が下がっている。

中国ユーザーは安価なロシア産パルプの購入を増やしたり、パルプの購入そのものを減らしたりしている。一方、供給面においては、主要生産地域におけるパルプ生産工場での事故やシャットダウン、カナダの大手鉄道会社がストライキを行う可能性がある等、供給不足懸念が続いている。欧米マーケットからの需要が堅調に推移していることもあり、需給は逼迫している。

〈LBKP〉前月比 \$ 30 値上げの \$ 805 ～ 855 で決着した。3 ヶ月連続の値上げとなった。中国での価格が上昇したため、日本向けも同じ動きとなった。

中国では、5 月の在庫販売価格の上昇幅を下回り、在庫販売価格が輸入価格を下回った。中国ではパルプ価格の上昇を製品価格へ転嫁することが困難な状況にあるため、製紙メーカーは安価な中国産の購入を増やしたり、稼働率を下げたりしている。世界的には未だ需給はタイトな状況にあるが、南米の大手サプライヤーの新工場の稼働が近づいている等があるため、価格は世界的にピークに向かいつつあると思われる。

(2) 上物市況報告

[全体の状況] 毎月構造的な需要減少に見舞われており、5 月も主要品目は段ボール原紙、白

板紙を除いては前年割れとなっている。

[家庭紙] 製品値上げが通り、仮需は収束した模様。輸入品のシェア拡大の影響に加え、たて続けの製品値上げによるエンドユーザーの購買意欲低迷から、製品の荷動きと生産はともに低調に推移するものと予測。一方で産業古紙、オフィス古紙は発生ともに低調な為、引き続き弱含みながらバランスしていくと思われる。

[白板] 引き続き減産基調継続。原料となる古紙の発生は低迷していることから、需給環境は大きく崩れることなく低位でバランスしていくと思われる。

●研究委員会：新聞チラシ重量調査月（6月）
 次回の三紙会は【7月23日（火）16時00分～】
 定例会後、納涼会を開催
 活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会活動報告

令和6年度 7月 定例会

日 時：2024年7月23日（火）

16時00分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：井出 一之・井出紙業(株)

足立 進・王子齋藤紙業(株)

報告者：足立 進・王子齋藤紙業(株)

出席社 22社

【令和6年6月

裾物主要三品仕入実績報告（34社）】

[段ボール] 前月比 96.6% 前年比 97.9%

[新聞] 前月比 96.9% 前年比 89.9%

[雑誌] 前月比 90.8% 前年比 95.5%

[総括] 古紙の発生は低調が続き、三品共に前年割れとなった。

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

平均単価：段ボール…10.31 円、新聞…12.47 円、雑誌…4.84 円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

（1）パルプ市況報告

[NBKP] \$ 価格 945 前月比 ± 0

[LBKP] \$ 価格 805 ～ 870 前月比 0 ～ + \$ 15

〈NBKP〉日本向けの6月積み価格は、前月横ばいの\$945で決着した。2ヶ月連続で価格が上昇していたが上げ止まった。中国向けの価格は軟化した。サプライヤーは欧米マーケットにおける価格上昇を背景に、3月以降中国ユーザーに対しても強気の価格交渉を行っていた。しかし、中国の紙・板紙の需要停滞が続いており原料価格の転嫁が進んでいない。そのため、中小製紙会社を中心に稼働率の低下を余儀なくされている。

需要が低迷しているため、上海先物市場の価格や在庫販売品の価格は下落しており、いずれの価格も輸入価格を下回っている。供給面においては、カナダにおけるチップ不足等の懸念があるものの、3月に発生した爆発事故以降、休転を余儀なくされていたフィンランドの大手サプライヤーが再稼働したため、供給不足が緩和される可能性がある。

〈LBKP〉日本向けの6月積み価格は、サプライヤーにより異なる価格対応となり、前月同値～前月比 + \$ 15 の値上げの\$805 ～ 870 で決着した。南米を中心としたサプライヤーは中国でも値上げのオファー価格を提示し、6月下旬まで値上げワークを続けていたが、ユーザーの強い抵抗を受け、値上げの撤回を余儀なくされた。

NBKP 同様、需要低迷のため在庫販売品の価格は下落しており、輸入価格を下回っている。また、欧州マーケットでも需要が弱まっており、価格の上昇が止まった。南米の大手サプライヤーの新工場が7月に稼働開始する

予定であり、供給量の増加に伴い需給が緩む可能性がある。

(2) 上物古紙市況報告

[白板] 白板各社は引き続き減産継続。原料となる古紙の発生は低迷していることから、需給環境は大きく崩れることなく低位でバランスしていくと思われる。一部メーカーでは、白板の主力原料の発生低迷から、代替原料を探し始めている。

[家庭紙] 製品値上げによる仮需の揺り返しで製品の売り上げは低迷。しかしながら秋需に向け製品を積み増したい意向もあり、お盆も操業を予定しているメーカー有り。産業古紙・オフィス古紙の発生は引き続き低迷しており、予定通りの入荷がなかったメーカーは岳排期間も荷受けしている。通常月以上に発生が減る8月はタイト感が出る可能性あり。

●研究委員会：新聞・チラシ重量調査 集計結果配布

●財務委員会：原価構成比調査依頼（令和5年度分）

●広報委員会：「かんとう」三紙会 tweet 執筆協力依頼

●その他：六地区懇談会（7月18日 岡山にて開催） 報告

定例会終了後、屋形船「鈴木屋」にて暑気払いを開催

次回の三紙会は【8月26日(月) 15時30分～】とする。

活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入平均単価報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会活動報告

令和6年度 8月 定例会

日 時：2024年8月26日(月)

15時30分～17時00分

場 所：関東製紙原料直納商工組合 会議室

幹 事：島田 秀彦・(株)工藤商店

尾花 健太郎・(株)大久保

報告者：川嶋 秀明・(株)ナコジ

出席社：16社

【令和6年7月

裾物主要三品仕入実績報告（34社）】

[段ボール] 前月比 108.4% 前年比 104.3%

[新聞] 前月比 102.5% 前年比 94.0%

[雑誌] 前月比 102.9% 前年比 100.8%

【ブロック別仕入平均単価報告】

○各地区発表

平均単価：段ボール…10.36円、新聞…12.55円、雑誌…4.93円

【各委員会活動報告】

●業務委員会：

(1) パルプ市況報告

[NBKP] \$ 価格 945 前月比 ± 0

[LBKP] \$ 価格 805 ～ 855 前月比 ± 0 ～ + \$ 15

[総括] 北米マーケットでは半年以上に及ぶ価格上昇が止まり、スポット価格は小幅に下落した。欧州マーケットでは約1年ぶりに価格が下落した。中国マーケットでの価格下落幅は欧州マーケットより大きくLBKPは前月比 \$ 100以上の大きな下落となった。欧州マーケットでは家庭紙向けの需要は比較的堅調であるものの、一般筆記用紙向けや特殊紙向けの需要が減少している。中国マーケットでの大幅な価格下落や需要低迷による影響も大きく、需給は買い手有利の状況にシフトした。中国マーケットでは需要不足が依然として続いている。7月に南米の大手サプライヤーの新工場（LBKP）が稼働開始したことや夏場の不

需要期に入ったことで、価格を下押しする圧力が強まった。

(2) 上物古紙市況報告

[全体の状況] 7月の製品出荷に関しては、段ボールや白板などのパッケージ用紙と衛生用紙が前年同月比でプラスとなったが、新聞用紙や印刷・情報用紙は2年以上連続で同マイナスとなった。デジタル化の進展で塗工紙を中心に減少に歯止めがかからない。

[家庭紙] 岳排中は生産を停止して製品出荷を続けていたため、メーカーによってはお盆に製品在庫復元生産をしていた。そんな折に先般の南海トラフ地震による備蓄特需が発生しており、お盆明けも生産を強めているメーカー有り。ただ、特需の揺り返しもあり可能性があり注視が必要。

古紙に関しては、岳排中にも荷受けをして

いたため足元の逼迫感はないが、秋需～冬需に向け原料調達に対しては積極的である。

[白板] 今までは製品輸出を強めることで国内製品出荷の低迷をカバーしてきたが、昨今の円高の影響により国内向けへのシフトが必須となっている。しかしながら国内需要はインフレもあって輸出減少分を補えるかは微妙。全般的に生産は強くないが、使用古紙の発生減により雑誌を筆頭に逼迫感が強くなる可能性あり。

●研究委員会：9月新聞・チラシ重量調査の協力依頼

●財務委員会：原価構成比調査の再依頼

次回の三紙会は【9月25日(水) 15時30分～】とする。活動内容の予定は以下の通り。

- 裾物三品仕入実績報告
- ブロック別仕入平均単価報告
- 各委員会報告

二十一世紀の環境を守る。

信頼のパートナー。

古紙用ベラー番線。



キャリヤー巻紙



コイル巻紙

豊かな環境を
ワンダフルに21世紀



- ・最良の品質
- ・豊富な在庫
- ・万全なサービス

株式会社 櫻井

<http://www.kk-sakurai.com/>

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里4-13-12

TEL 03-3803-3511

FAX 03-3807-8153

巻紙径 φ	コイル 1巻	コイル 1巻	1/2T- 1巻	1/2T- 1巻
φ12 25%	50	100	500	1,000
φ10 32%	50	100	500	1,000
φ8 40%	50	100	500	1,000

ベラー番線

最良の品質・防錆OK

ートラブル、ロスが少ないー

50K・100K・500K・1000K

坂野興業株式会社

東京本社 TEL03-3718-7311 FAX03-3724-8170

浦安営業所 TEL0473-54-6531 FAX0473-51-5201

静岡営業所 TEL054-624-1101 FAX054-624-6704



報告者：三紙会・相田 寛文（株丸興佐野錦一商店）

開催日：令和6年7月18日(木)

14時00分～15時45分

会場：ANAクラウンプラザホテル岡山

出席者：[三紙会]6名、[中部ファイバースクラブ]11名、[紙朋会]5名、[紙志乃会]9名、[紙藍会]7名、[紙縁会]19名
計57名

1. 開会挨拶

紙縁会 田中会長

自分が会長になって初めての中国地区での開催であり、幹事として至らぬ点もあるかと思いますが、有意義な会合となるように精一杯頑張りたいと思います。

また現在は人材不足がどこの会社も大きな問題となっているが、どうすれば選んでもらえる会社になれるのか、第二部の講演会で何か良いヒントが得られるかもしれないのでご期待いただきたいと思います。

本日は長丁場になるかと思いますがよろしくお願いします。

2. 各地区情報交換

(1) 市況報告

資料の配布のみ。

(2) 運賃改定について（取り組み状況等）

① 関東地区

運送会社から運賃値上げの申し入れがあったら、安定的に出荷するためにも運送会社が提示した価格を基本的にそのまま了承している。4月から改定している問屋が多い。それに合わせて各問屋が製紙メーカーに対して運賃改定の交渉をスタートして、7月時点でほとんどの製紙メーカーと交渉が決着した様子である。

② 中部地区

国交省から告示された「標準的運賃」をもとに、中部地区全体として、中部商組の代表理事から古紙再生促進センター中部委員会委員長へ

運賃改定見直しの依頼を出している。その上で、一部各社ごとに交渉をしているようである。

③近畿地区

4月から大阪域内で工場着値が20%上げて1.2円、一部12%上げて1.12円。

④中国地区

製紙メーカーから運賃を値上げしてもらったが、運送会社からはそれ以上の値上げを要求されるケースが多くなっている。庸車の確保も難しくなっている。

⑤四国地区

製紙メーカーからの運賃は3～5%上がった。運送会社の値上げ要請も強く、特に日曜日の配送は平日と同じ料金では難しくなっている

⑥九州地区

製紙メーカーおよび運送会社に対して、人件費や燃料費等のコスト高の状況を共通認識として持ちながら継続的な交渉を行っているところである。

(3) 事故事例とその対策（ヒヤリハットも含む）について

■事例1／構内を歩行していた作業者と後退してきたクランプリフトが接触し、作業者が打撲、全治2週間の怪我。

（再発防止策）歩行者用通路を設定して重機の侵入を禁止するとともに、重機に接近危険を知らせるLEDランプを設置した。そして全社員向けに安全運転手順書の再教育と外部の専門者による現場の職場長教育を実施した。

■事例2／平ボディ車の荷台から滑って転び、骨折で1年間休業。回収先で踏んでしまったグリスが原因で滑った可能性がある。

■事例3／パッカー車で段ボールの積み込み時に指を挟む。段ボールを押し込む際に、指導していた方法をとらずに、自分のやり易い方法をとってしまったことが原因。

（再発防止策）2ヶ月に1回、安全会議の際に保険会社に来てもらって行っている。

■事例4／構内の狭いスペースで作業員とリフトが同時に作業している環境下での接触事故。

■事例5／不適切な重機の作業により金属片が飛んでしまい、作業員に当たって怪我をしたという事故。

■事例6／パッカー車のホッパーが上がった状態で発車してしまい、隣のトラックへぶつけてしまった。

（再発防止策）ホッパーが上がった状態のときは常にブザーが鳴るようにメーカーに改良してもらった。

■その他の対策・教育

- ・入社2年未満のドライバーの事故が全体の3～4割を占めているので、入社2年未満のドライバーへの再教育に力を入れている。（中部地区）
- ・広島市の産廃業者で、社内運転資格技能講習などの独自の安全運転活動を積極的に取り組んでいるところがあり、参考になる。（中国地区）
- ・特に新人は慣れたときに事故を起こしやすいので、慣れてきたタイミングで再度教育を行っている。また年に2回、保険会社及びパッカー車のメーカーに来てもらって安全教育を行っている。（四国地区）

(4) 人材不足への取り組みについて

①関東地区

- ・空調服の配布やミスト発生器の設置などを行って労働環境の改善を図っている。
- ・回収ルートや回収頻度の見直しを行って、回収業務の効率化を図っている。
- ・人材派遣を活用している。



懇談会の模様

②中部地区

- ・人材紹介業の資格を取得して、求人業務を内製化しており、他社へも人材を紹介している。
- ・回収業務を他社へ委託している。
- ・回収車両を AT 車両にしたり、小さめのパッカー車にして、若いドライバーが運転しやすい環境づくりを行っている。

③近畿地区

- ・空調服にドライアイスを入れて冷却効果を高めている。
- ・Indeed を利用して求人募集をしている。
- ・1 回の回収量が少ない回収先に対しては、カゴを設置してもらい、回収頻度を減らしている。

④中国地区

- ・出所者を試験的に採用している。

⑤四国地区

- ・求人媒体の見直し
 - 求職者のハローワークの利用低下に伴い、民間の大手求人媒体へ移行。
 - 社員・知人からの紹介制度を導入し、紹介者へ謝礼金を支給。
- ・ドライバー免許取得保持制度による補助
- ・雇用形態の見直し
 - 完全週休二日制、フレックス制、時短勤務、副業就業の自由、定年後の雇用継続の実施。
- ・企業の認知度向上、企業のイメージアップ
 - HP のリニューアル、SNS の活用、新卒者の定期採用、環境教育の実施。
- ・SDGs 活動の推進
 - 古紙回収ボックスの設置など既存のリサイクルに付加価値や地域貢献策を講じたその地域に根付いたサービスを PR
- ・職場の環境づくり
 - 女性が働きやすいように更衣室、休憩室、トイレの設置。
 - 工場内の環境づくりとして、エアコン、断熱材、屋根に遮熱塗料塗布、空調服支給などを実施。

⑥九州地区

- ・産業雇用安定センターへ企業が登録することで、無料で求職者を紹介してもらえる。

(5) その他

- ・中部ファイバークラブより、中部商組経営革新委員会 SDGs 推進部会で行われた SDGs グループ研修の成果について報告。
- ・三紙会より、6 月度の新聞・チラシ重量調査結果について報告。

第2部 講演会「働き方改革の事例」

懇談会終了後、同会場にて株式会社 WORK SMILE LABO 代表取締役 石井聖博氏による講演が行われました。講演では、中小企業の生産性を劇的に高める働き方改革の事例として、経営破綻寸前の状態から岡山県内の新卒希望就職先ランキングで1位を獲得するほどまでに成長した自社の事例を交えながら紹介していただき、人材不足の中でも求職者から選んでももらえる魅力ある企業になるためのヒントを得ることができました。

講演終了後、同会場にて懇親会が開催されました。紙縁会 岩本氏の乾杯の発声で懇親会がスタート。岡山の旬の食材を活かしたおいしい料理とお酒を堪能しながら、大いに盛り上がり、親交を深め合うことができました。最後に各地区代表の方々の挨拶の後、次回開催地区である四国・紙志乃会 石川会長の中締めで懇親会はお開きとなりました。



紙縁会の田中会長の挨拶並びに各地区代表者

特集 I

藤川新理事長と各委員長の座談会 —14年ぶりの新体制で逆境に挑戦— 発生減、労働者減への問題意識を共有



関東製紙原料直納商工組合ではさる7月19日(金)、組合事務所にて藤川達郎新理事長と各委員長による座談会を実施した。

古紙発生量と労働人口の減少への対策を

藤川 第二回目の理事会の前の、正・副理事長と各委員長との合同会議の中で、ブレインストーミングを行いました。今後、古紙の発生は減少し、労働生産人口も減少していくという前提で個々の会社と組合はどのようにしていけばいいのか、という意見を10枚ぐらいのレポートとして皆さんに提出して頂き、現在、私と経営革新委員会の新井さんで整理して纏めている段階です。

なぜこんな事を始めたかと言うと、今年の4

〔出席者〕

理事長	藤川 達郎
経営革新委員会 委員長	新井 重樹
安全防災委員会 委員長	大久保 薫
需給委員会 委員長	畑 純一
渉外広報・IT委員会 委員長	斎藤 大介
司会進行	大村 浩一 (紙業タイムス社)

月に古紙再生促進センターから出た資料「サステナブルチャレンジ 2050」の中で、古紙の発生予測量について厳しい将来予測が示されたからです。昨年の1,639万tが2030年の下位シナリオでは1,371.3万t、2050年の下位シナリオでは977.7万tという予測数値が出ています。また日本全体の人口も減少していきますが、2020年の労働生産人口7,400万人が2045年には5,584万人となります。本当によく纏められた資料で、このほかに製品の減少なども載っており、個人的にはこうした減少のスピードはもっと早まる

のではと思っています。そして6年後には古紙が相当減ります。ピークの時代に比べて去年すでに600万t減っていますが、6年後にはその昨年比でさらにマイナスし270万t弱減るとの予測です。

こうした発生減、労働者減への問題意識をまず組合内で共有するところから私は始めたいと思います。その中で、皆さんの意見を集め、それを全原連の委員長と関東商組の経営革新委員会の委員長で纏めます。9月には中間報告を正副委員長の皆さんにお知らせし「こういう形で進めたい」と各委員会へ提起して、出来れば年内ぐらいに対策案をまとめて欲しいと思っています。

色々と素晴らしい意見が出ており、そのひとつに「業界の基礎データが最近何も出ていない」という指摘がありました。以前は組合の近代化推進事業で就業者数や勤続年数、賃金まで収集していました。そうした基礎データを集めておけば、それを背景に自治体やステークホルダーに対してお願い事が出来るようになる、という考えです。

私は個人的には「人手不足」と「取扱量の減少」を喫緊の課題と捉えており、これへの対策を推進していきたいと思っています。恐らく色々な反対意見もあるかと思いますが、それでも2030年・2050年にこの業界が生き残れるのかという問題は深まりますから、こうした課題を積み残しにせず、次の世代に渡せる形にしたいのです。

また先日の正副理事会の中で、組合にIT関連の共通ビジネスを担当する委員会が無いという話が出ました。ITを活用して古紙業界の、また組合としてのDX化が出来ないかという事で、本当は色々課題がある分野ですが進められていません。

——ITに関して、新しい委員会を組織するのは。

藤川 そこまでは難しいと思います。全原連の組織で言えば広報・ITとなりますが、それを関東商組でやろうとするとメンバーが足りなさすぎます。一方で需給委員会は20人以上いますが、今後各委員会間でメンバーの振り分けをや



理事長 藤川 達郎

らなければいけないと思います。やはり営業が主体という会社が多く、どうしても需給委員会へ人員が集中しがちですが、そうしたこともお願いベースで進めていけたらと思っています。

こうした中では、経営革新委員会の役割が今後最も求められてくると思います。例えば人手不足対策などでは本当に休日問題が関わって来ます。

パーパス経営を意識して、各委員会の目的と仕事の見直しを

——経営革新委員長の新井さんの考えは。

新井 藤川理事長の視点には、就業人口の減少と、古紙の発生量の減少という2つの大きなポイントがあります。

就業人口の減少は大手も中小企業も同様に直面しています。私がこの業界に入ったのが1990年、その時の古紙の回収量は1,500万t程度でした。それ以来古紙は幸運にも私たちの時代に増えてきました。日本でバブルが崩壊して、他業種には厳しい時代でしたが、私たち紙業界は数量を追い求める業界でした。

しかし今後は古紙の取扱い数量の増加が望めず、さらに就業人口の減少があるので、人手をそれなりに使いながらも扱い量が減少する中では、以前に比べ固定費が増加する懸念があり、収益を確保して経営する難しさがあります。これからは、マンパワーを確保しながら、収益を維持向上しなければいけない。そうした状況へ

の危機感を藤川理事長が一番持っていて、組合として取り組むべき事をいま一度、纏めて見直そうとしているということです。ここ3～4年前からビジネス書等で題材になった「パーパス経営」というものがあります。これは「何を目的として企業が事業に取り組むのか」、企業としての存在理由というもので、創業者が居る会社では強い。例えばユニクロやドンキホーテでは、こういったことを創業者が発信し続けていますが、会社の経営層が何代も代替わりした企業ではあいまいになっていく。当組合でも今一度、組合の存在理由を考えてみる、組合の現在行っている活動を改めて捉えなおしてみる必要があります。

その意味ではこの組合の4つの委員会のうち、安全防災は非常に判り易くて、3K 職場を抱える業界ならば組合として労務的な安全衛生に特化した委員会を作ろうという事で、齋藤米蔵さんから大久保薫さんが引き継いで委員長をしています。

これに対して経営革新委員会は、当初は需給委員会や渉外広報・IT 委員会とは係わりが無い分野を担当していました。需給委員会を梶野さんがやっていたため、経営革新委員会はもともと深田和利氏、瀧本義継氏、梶野隆史氏、私という風に続いてきました。畑さんも副委員長として一緒にやって下さり、問題意識が近い畑さんや栗原護さんとも対話をして、色々なことを委員会として纏めては話をしてきました。その意味で今何かをやろうとすると、需給委員会の仕事や、渉外・広報委員会と絡む場合もあるため、そうしたことも踏まえて、藤川委員長は組織体制の見直しを含めて考えておられるのでは、と感じています。

あと就業人口の減少に関しては、対策は恐らく2つしかありません。製造業ならば機械化・オートメーション化であり、その意味ではDX化も一部社内の間接部門や就業者をもう少し減らしても業務がやれるという事なので。古紙業界も自動化はなかなかやりづらいですが、実現



経営革新委員長 新井 重樹

可能なら現場作業も効率化するのでは、と思います。

ただし、製造業なら機械化・オートメーション化すれば人が少なくなっても仕事はできますが、私たちの業種はマンパワーを必要としており、そうした業界では給与を上げるしかなく、成長どころか今の人員を維持していくのもなかなか大変で、その辺の問題意識は組合内の経営者の皆さんも一緒だと思います。

安全な職場を提供することで、雇用の確保や働き易さの改善に貢献

——安全防災委員長の大久保さんに今の状況を。
大久保 安全防災委員会では年4回の安全ポスター、春と秋のリーフレット作成や、防火に関するポスターの作成や、先ごろ完成した安全DVDの普及などを行っています。加えて昨年度は安全衛生推進者の公的資格取得への組合としての助成も開始し、組合員の皆様の安全意識を高める活動を行っています。

先ほどお聞きした藤川方針を受けて、我々委員会が何をすべきかと考えると、今後の人手不足に際しては色々な人に働いて頂かなければなりません。その中には女性も高齢者も、派遣社員や特定の実習生もいます。そうした方にまず先に「安全DVD」を見せてから就業する。労災は会社として一番ダメージが大きい事ですから、その防止という意味でこの安全DVDを見せて

「危険個所が分かった」「自分で理解した」という形で仕事に送り出す、という風に組合員の皆様に使って頂けるものを今後も作っていきたいと思います。安全な職場を提供することが人の雇用の確保や、働き易さ、働き甲斐の部分にも繋がります。

安全衛生推進者をふやす

より一層安全な職場を目指して組合として何をしなければいけないかを突き詰めていきたいと、昨年から始めたのが「安全衛生推進者」の資格取得の推進です。この制度は従業員10名以上の会社に義務づけられていますが、我々業界の一事業所では10名に達しないところもあります。そんな場合もこうした推進者を置いて安全な職場を提供できるという後押しを継続してやっていきたいのです。以前は年2回「安全セミナー」という形で危険予知やヒヤリハットといった内容を提供してきて、それらもちろん大事ですが、やはりこうした公的資格に対しては組合が補助しながら人数を増やすことが必要だと考えました。

延べ10時間、組合でやる場合は5時間×2日間の講習が必要なため、現場の人には拘束時間の面で多少ハードルが高いですが、たった2日間で資格が取れ、しかも組合が助成してくれるとなればすごく有難いことだと思いますので、今後も年一回の限定講座でやっていきたいと思っています。

また現在は安全衛生についてかなり法律が変わってきて、例えばゲート付のトラックに乗車する場合1日6時間分の追加講習が必要になるなど変更されています。そうした安全に関わる色々な法改正について組合が色々な形で情報発信をしたり、必要な資格を紹介して取得を補助するなど、人手不足や人の働き易さという部分への取り組みが、当委員会にとって藤川方針を支援できる事ではないかと考え、活動していきます。



安全防災委員長 大久保 薫

新しい仕事に取り組む事で、組合員の経営環境を改善できないか

——需給委員長の畑さんに、今のお考えを。

畑 先ほどの理事長方針の中に、やはり古紙の発生減と、人口がこれから減ってくるという二つの課題と共有方針があります。皆さんと同じ様な観点でお話すると、2024年から約7年後には古紙も約300万t近く減少すると暫定的な数字が出ていますが、古紙の発生減が止められない、どこまで減るのかという事から、今後私たちの次世代の頃には恐らくこの業界自体を止める人が頻出するのではと思いますし、組合員も必ず減って来ると思います。

色々な方針に従って会社を売ったり買収されたりといった事も最近起きており、皆それぞれ方針があって良いとは思いますが、業界として見た時に、仕事が無いなかで組合を作っていてもなかなか難しい。組合のなかで従来の古紙以外の仕事を関東から始めていく、といった方針を取らなければ、今後はリサイクル業者として生き残れないのではないかと思います。

しかし世の中になかなか新しくリサイクルできるものはない。幸いこの組合の人たちは大体関東か東京都、国内で一番人口減が少ない地域に工場がありますから、前理事長も言っていたが、皆で新しい仕事に取り組んでいく事が今後の課題ではないか、と思います。

そうなる廃棄物や専ら再生物の世界で、古紙屋に一番合う、古紙と同じ性質をもって出来るものは何かと常に考えていかなければならないのではと思います。僕もずっと勉強してはいますが、例えば保管する施設が不要な鉄と、屋根付きの場所が必要な古紙では全然性格や特色が違う。だから鉄をやっていた人が古紙をやっても余り成功しないし、古紙をやっていた人が鉄を多少やっても、大成功した例はそれほどないわけです。

都市型リサイクルという意味では、他の業界から出たものや、区民・市民から出たリサイクルする商品を、どうやって今後この業界で取り扱っていくか。個々の会社でやる分には全然出来ることですが、業界を生き残らせるという話ならば、古紙を中心にやりながらも、業界で一気にプラスαのリサイクル物を取り入れる事によって皆さんの会社運営が再び良くなるのでは、というのが僕の意見です。

一方で人口減少については、肉体労働者にこれからなりたい若者がどれだけいるのかと考えると、現実には一人もいないと思います。例えば大学を出た自分の息子に「トラックに乗ってくれ」と言うような父母はいない。そういう業種に皆さん興味がない訳です。運転手を雇うなら給料をすごく高くする、そういう時代が間近に来ている。業界でサラリーマン並みの高給をトラックの運転手に出す、そうしないと人手は集まらないと思います。今のところそれ以外の方法が無い。

こうした2つの問題について、これから自分も考えて、皆さんと共にやってきたいと思います。

重要性が高まる渉外・広報活動

——渉外広報委員長の斎藤さんに、今の委員会の状況とお考えを。藤川理事長は情報発信が非常に重要だと某誌で語っておられましたが。

斎藤 組合では会員などに情報を届ける手段として、組合ホームページ（HP）と広報誌「かんとう」の2つがあり、この2つの運営は渉外広



需給委員長 畑 純一

報・IT 委員会が担当しています。我々委員会の側からすると、HP や広報誌に載せる情報、記事がいつも足りなくて困っているところです。理事長の「載せたい情報があるし、載せていきたい」と言われる話とは一寸感覚が違い、ここはもしかするとうまく接続されていない所があるのかな、と思います。

それと、渉外広報・IT のうち渉外という部分は最近充分活動が出来ていないようです。自分もここ10年ほど渉外広報委員会にいますが、渉外と呼べるような活動はあまり無かったのでは、と思います。渉外というものは幅が広くて、何が渉外かと言われてもパッと出て来ませんが、そうした活動がもっとあれば、それに関して組合員に伝えるべき情報もまた出てくると思います。

あとITについては、渉外広報・IT 委員会のメンバーは組合のITを進めなければならないという意識は持っています。何度かそんな事を理事会などの席で言った事はありますが、理事会のほうがついてこなかったように思います。過去には組合員さんの側でも「FAXで送ってくれ」と言うような時代がありました。

IT化はやらなければいけないと思っています。情報をデジタル化するだけ以外の、IoT も然り、色々な作業の部分のデジタル化など広範囲なIT化は僕自身はやってみたいと思っていますが、今のところは、情報を乗せるIT、ITの変革というところにあります。あとは現場のデジタル化もある。

以前、梶野さんと話して本当にそう思ったのが「企業間の電子データ交換 (EDI)」で、もしも製紙メーカーと我々との間でやっていけば、受発注の業務や、請求支払い業務などがかなり合理化されます。現状では仕切り伝票とか計量などがFAXで送られ、それをいちいち手で入力し直していて、それだけでもすごく手間ですから。価格が一番厄介で、例えば「今月の価格はいつ決まるのか？」などと言うのは業界の一番悪いところですが、EDIになれば全部無くなるので、そういう取り組みは製紙業界と共にやっていきたいと思います。

あと情報の出し方としてSNSをやらなければならないのかな、などと思っています。これは業務内・外の両方の人を対象に含みますが、SNSが一番広く、情報が伝わると思うので。こうして考えていくと、当委員会でやっていく課題は沢山あるのではないかと思います。

——以前行っていた新聞・専門誌記者を招いての業界座談会などは渉外活動と言えるものでし、東京都などのリサイクルイベントにもっと出展するとか出来れば、それもまた渉外としての活動になり得ると思います。

大久保 SNSは当組合には不要では、と思います。やるとしたら誰がやり続けるのかな、という話になります。資源・リサイクルを活性化するために一般の人に訴える、という事を組合の誰かが毎日、あるいはもっと短い単位でやり続けるのはすごく大変で、人員に余裕があれば出来ませんが、問題山積のいまの組合の状況下で、優先順位を高くしてやるべき事かな、とは思ってしまいます。

斎藤 組合全てに共通で人手不足で、どの委員会でも人がいないのです。組合職員を倍増して、その方にやってもらえたらと思う。

新井 私もそれは提案しました。事務局長みたいな能力のある人を一人入れたほうが良いですと。

先ほどパーパスについて話題にした理由の一つは、各委員会のしている仕事をもっと原点に帰って、本当に何をすべきかという点を考え



渉外広報・IT委員長 斎藤 大介

た時、一番割りを食っているのが渉外・広報だと私は思っています。とにかく人員がいない。一方で本当は渉外・広報委員がやるべき事はすごく多岐にあって、経営革新委員会で畑さんや栗原護さんと話していて「やれていないから、こういう事をやらなくちゃいけない」と考えたりしていますが、これまでの渉外・広報活動は過去の伝統からすれば資源回収組合との渉外や、牛乳パックリサイクルネットワークや古紙ネットなど古紙が余った時の市民団体との渉外、この2つがたぶん一番多かったのではないかと思います。

これに対して組合のいまの広報は、主に内部の組合員に向けて内部的な広報をするとともに、一部はステークホルダーである古紙センターや製紙メーカーに広報誌を配るぐらいですから、他に渉外・広報すべきところは一杯あると思いますが、委員長を含めて4名しか居ないので、やれないですね。

斎藤 渉外に出る機会があれば、それに魅力を感じて委員になりたいという人も出てくるのではと思います。

東京都や回収団体、マスコミへの働きかけを

新井 経営革新で議論したのは、まず東京都環境局と窓口を作ってやれる位にしなければならぬ。このことは渉外とからんできます。

斎藤 東京都、環境省、経済産業省となるとやってみたい若い人は出てくるのでは。

藤川 経産省はぜひお願いしたい。

新聞の取材も、担当は広報かな。

斎藤 本来はやるべきなのです。

藤川 新聞記者さんはやはり市況の事が聞きたい訳でしょうから。

斎藤 というか現状では、記者は自分の書きたい事を書きたいみたいです。

新井 本当に速報性がないというか。先週も古紙高騰とかサラッと書いていましたけど。

畑 あれは一か月前の話題です。コンテナ不足が原因だとか書かれていたけど。

大久保 そういう記事の相違に関して、組合から特に申し入れはしていないですよ。

斎藤 情報源が古いからなんですよ。取材に行く人が古い情報しか持っていない。

大久保 そこは渉外・広報に情報窓口を一元化するとかした方が良いでしょう。

藤川 ああいう記事は、今では新聞の側でも紙面に空きがある時に載せている感じでしょう。

新井 タイムリーでなく逆効果です。そんな事をしていたら新聞だってどんどん売れなくなる。——定期的に情報提供する形にした方が良いでしょう。

斎藤 そうすればこの業界を無視できないぞと意識づける事にもなる。組合の仕事は増えますが。

新井 仕事が増えるのは問題ですが、そういう時はX（旧ツイッター）で情報提供するとか。「きょう出た記事について、一か月前は記事の様な状況でしたがいまは違う」とか。

斎藤 組合の事務局員を増やす、というのはどうですか。

新井 増員する前に、まず仕事のやり方を見直さなければ。前出のメールアドレスがないとかの話もそうですが、経営革新委員が組合で現在やっている仕事は主に古紙リサイクルアドバイザーの試験と認定、適格事業者の認定ですが、それをやって活動が終わり、となってしまいます。

それもFAXのやり取りで手書きした紙でやりとりしてから、組合側でわざわざ集計して手入力している。今はもうそんな時代ではない。入力フォームを置いておけばデータが飛んでき



座談会の全景

て一覧表が出来るのだから、申込者に入力して貰えばよいのですが、現状では組合員代表のメアドすらないので…。そうした点を考えると、斎藤さんが言っている「事務局員を増やそう」というのは、これまでと違う仕事をやらしてもらおう、という意味でなければならないと思います。

藤川 皆さんが事務局員を多く、と言えそういう格好になるのでしょうけど、今の形では組合事務局は全原連の事務局の仕事もしている。すると新しい仕事をするとなれば、全原連の仕事のほう制限されてしまうという面が出てくる。ちょっと現実的ではないのかなと思います。皆さんが賦課金増やしても良いという話なら考えられますが、そこは恐らくノーなので。

大久保 賦課金増やすぐらいなら、まずやる事とやらない事を明確にして…。

藤川 当組合も各委員会にはそれぞれ予算を取っていますが、実態として広報は広報誌の発行やホームページの保守など、業務にお金が掛かりますから、その面でも一番割りを食っていると思います。2030年、50年を考えなきゃならない時に、もっと有効にお金を使おうよ、と言いたい訳です。

リサイクル業界の動向を調査し、捉えるための活動を

新井 組合の調査機関としての活動が不足しています。他業種がどんな事をしているとか、どんな法律が影響して来るかといった情報を組

合がちゃんと持っていて変遷などが分かる様にしておいたほうが良いのですが、現在そうした事が組織的には出来ていません。渉外の話は大分していると思いますが、こうした活動が今後は結構重要で、先ほど「東京都環境局と付き合った方が良い」という話では23区のそれぞれに既存の業者はずっと存在していますが、将来的に事業系のゴミ屋さんがやった方がコストは安いでしょう、といった話があります。東京都が変革するとなれば、東京23区との連絡チャンネルは持っていたほうが良いと思いますし、他の廃棄物処理やリサイクル関連の団体とも。現在の人手不足のなかで、それまで行政が支援していた先が変わるとなると、人材もまたそちらへ流出する恐れがある。当組合としてもそうした事への対策は強く考えて、情報や知識の集約が必要ではないかと思っています。

畑 東京都の場合「これからリサイクルでこうした事業をやる」といった廃棄物関連事業の情報は一番早く聞いた人たちがやる、という流れで全部決まってしまう。東京から離れた千葉や埼玉、神奈川では状況が違うのですが、業者選定はとにかく情報だけでも掴むチャンネルは独自に持っていたほうが良い。業界としてやれるのなら許可を得るだとか、そういう事が重要な訳です。

藤川 そうした所へ今まで行っていないのは、我々がやはり古紙問屋だから環境局とは縁がないという形なのかな。

畑 問屋だからはいけない、という意識や考え方もあったと思います。

新井 問屋だから昔は自社での回収もしていなかった。今では自社回収ばかりやっていて、どこも回収の会社みたいな感じになってきています。——今後の新しいリサイクル事業が、製紙原料商寄りでない業界・団体に主導権を握られて、先に色々決められてしまう事態が起きかねない。

新井 そういう可能性はあります。

畑 我々もこれまではそうした事に興味はなかった。古紙業界が古紙をしっかり取り扱えばそ



れで良し、誰がどうやっても古紙は我々のほうへ来る、と思っていた訳ですが。

東京都が一番困っている事とか、一体誰が解決するのかと言った時に、やはり我々古紙業界にも声がかかるようにしていかなければと思います。僕らは行政回収しかやっていないから、手を上げるも何もない。だからそうした情報は、先ほど新井さんが言った様に、23区からのアンテナをしっかりとって、得ていきたいのです。

新井 事業系の一般廃棄物会社はそこで戦っているわけです。東京23区でそうしたリサイクルの変更が起きれば、やがては横浜市など近県にも波及します。

斎藤 渉外となると製紙業界とか、あとは国とか。周辺自治体や行政もあります。周辺業界では東資協にしても、事業系の協会にしても…やる事は一杯あるよ、というのは分かります。

藤川 それを全部やるのは大変で、今の委員会の人数では無理です。例えば行政など各支部長クラスで、支部単位で動いて貰いたい。「こういう事が問題になっていますね」というのを正副の合同委員会で決めて、それを支部長にお願いして、支部長から各自治体へとお願いするような形で。

畑 これからSDGsに向けて、東京都はやはりお金はあるので、改革へ進んでくると思う。小池知事の体制では、たとえお金がかかってもこのリサイクルをやりなさい、となれば23区が全部やる。だから逆に、これからはリサイクル事業のチャンスはどんどんあります。

藤川 リサイクルで「資源化しなさい」という

流れですから。

新井 現在は清掃工場の建て替えの時期になってきています。東京 23 区を含む関東の市町村の清掃工場が 30 年以上経って今後建て替える時に、人口が減っている時代に能力増はありえないし、リサイクルが進めば焼却量は減るでしょうとなった場合、リサイクルへと回すものはどこが扱うのか。回収して出てきた時に、それが議論になります。

畑 簡単に言うと、焼却工場に入るものに段ボールなども混じっており、そうしたもののリサイクルをこれから推進する訳ですが、それには許認可などが必要で僕らには弱い世界ですよ。例えば産業廃棄物の処分業許可であるとか、一般廃棄物の設置許可とか、どうやって取得するのか、という世界です。一般事業系などの業者は許認可を全部取ってやっているため、僕らの業界には回ってこない仕事だと思っていたのです。

しかしこれからは違う。僕らも都内の荒川区や足立区に土地はあるし、僕らの利用価値は絶対に出てくるのです。だから絶対に情報を常に取っていかないと。

新井 最近では都環境局の考えも変化してきた。理由はコストです。…ここまでの会話は「将来的には人手不足が原因ですべての所にルールチェンジが起こるのでは」という話です。

——その中で、これまで原料商が出来ていた古紙の仕事が、他の業界に喰われてしまわないように注意しなければいけない、ということですね。

新井 23 区は燃えるゴミの回収が週 2 回、燃えないゴミが 2 週間に 1 回です。外から見えて、燃えないゴミを各区で回収しているのは明らかに非効率で、もう少し効率よく出来る筈なのですが、そういう仕組みにはなかなかならない。提案としては出てくると思います。事業系一般廃棄物の業者さんとかは、別ゴミ込みでこのエリアをやらせて欲しいとか、足立・葛飾区をここでやります、といった事を売り込んでいるようです。

対して我々は週に 1 回、資源回収といって行政でやるので回収しますが、これは週 1 回で今



後も存続する。ということは将来、他のものの回収を今後は減らす可能性があります。

大久保 資源ごみの「ごみ」を外せ、という運動も組合として必要なのでは。

新井 その通りです。行政は「資源ごみ」と呼んでいるから、資源自体がなかなか意識されずそのように扱われない。「資源」とやれば先ほどの業者などから私たちが担い手になってきます。

直納としてのメリットを

斎藤 話の流れでいくと、ペーパーレスで紙が無くなっていくから、事業を継続するためにこれまでの紙以外のものを、というのはそうだと思うし、それはそれで良いのですが、この組合は「直納商工組合」なので、僕は「自分たちはここがコアだ」と思わなければいけないと感じます。製紙会社さんには当組合以外の会社からは買わない位にしたいです。直納組合に入っているメリットをしっかりと出すべきだと思う。そうすれば国内の製紙会社に向けての競合が減る訳で、問屋としての仕入価格も下げやすくなってきます。輸出で出ていってしまう場合は別ですが、何とか国内取引でももう少し利潤を稼げるようにしておかないといけない、と思います。そうすれば人手不足も給料を上げればなんとかなりそうですし、先ほど大久保さんが言った「社員を研修で丸二日は出せない」といった状況も、もっと経営に余力があれば回避できると思います。

藤川 ただ…今後の古紙業界を考えると、2050 年に全国で 900 万 t 台に落ちてしまうのでは、

粗利の改善だけではどうしようもない訳です。

斎藤 先に製紙工場がなくなり、売り先がなくなること直納問屋の数も減ると思います。つまり仕入れが出来なくなって廃業するのではなく、納める工場が無くなる。それでしょうがないから輸出でやる所がでてくるのでは。

新井 実際に新聞の輸出が多い地域は、新聞古紙を納める工場が無い地域だという話があります。

畑 全国で970万tぐらいになったらもうアウトですね。

藤川 1ヤードあたりでは何トン位の扱いに？もともと地方では1ヤードあたり300～400t／月でやっているヤードが普通にありますが。

斎藤 売買差益がキロ7円あれば良い時代になっています。それで数量が半分になったら差益を10円位で売るんです。

新井 方向はそちらへ向かっていて、粗利単価は増えています。ただ問題なのは、事業者数が増えて、プレイヤーが増えてしまったという事で。

斎藤 そのプレイヤーにもう一回制限をかけたいので、「直納商工組合」の「直納」という所をフルに使えたなら。

新井 確かに斎藤さんが言うように、商社が居ると、そこで受け入れればいいか、と言って自分のところも直納しなくなる可能性もありますね。

斎藤 商社経由で代納にしたほうが買い上げ価格は高い、なんていう今の時代がおかしい。その方向へとやっていくのも、この組合の役割ではないかな、とか思います。

——直納組合としてのステータスもあがります。

斎藤 そうすると組合員の満足度も上がるのでは。

畑 …本当に、直納の力は弱くなりました。新聞古紙なんて特に代納の方が持って行ってずっと儲かっている。僕らが買いに行くでしょう、すると凄く高くて国内の価格じゃない。輸出と同じぐらいの価格で買わされる。そういう時は直納って儲からない。

——製紙会社との関わりの中で、古紙の値段をそんなにあれこれ出来ないっていう事ですか。



畑 製紙メーカーは自分が欲しい時はどこからでも買ってきます。昔はそんな事は無かったですが。

将来を考えて、きちんとコストをもらう

斎藤 関東商組として、関東でない問屋さんとの渉外をどうするか。

藤川 仕入れ問題については、やはり支部でやるものだと私は思っています。それが広範囲にあちこちになる、という事になれば関東版対応になります。電話で話せるところは電話しますし。やはり「関東ルール」は守って貰えば…

畑 もうルールを決めなければ駄目です。

藤川 ただその「管理会社」的な形で引き取りが幾らとか、そこまでは。例えば我々も仕切りをどうしようとかは出来るとは思いますが。

斎藤 関東以外が悪いんじゃないくて、管理会社が悪いのでは。

藤川 そこら辺も、本当に「そんな事やっている場合なの？」というね。いま、囲い込みの為にやっているのでしょうけれど、将来考えた場合に、一旦はめ込んじゃうけれど、数字自体は減って来ないかと。

斎藤 僕らよりも、一般廃棄物の人が本当に困っている。安くやらせて古紙は高く買わせる、という事です。どう考えても人件費は上がっていて、ごみ処理代は上げなくちゃいけないのに上げさせてくれない。

畑 それ言うなら違うところへ切り替えるぞ、と。あのやり方でやっぱりあおられてしまう。

管理会社は今後、どんどん増えると思う。全然知らない会社が一杯増えていく。社員はせいぜい2〜3人で、そういう会社が本当に多い。

大久保 儲かるんでしょうねえ。

藤川 我々としては話し合いしかないです。

新井 誰かが仕事を引き受けてしまうから駄目なんでしょうね。

斎藤 みんなで(そんな安値では)「もうやんないよ」と言わなければやめられない。

藤川 パッカー車持っていて運転手のいるところは、それで1台持っていかれてしまうと、今度は人と車は遊ばせる訳にはいかない、という訳で引き受けてしまうのでしょうか。

畑 まあそういうのに皆あられる物件が我々にもありますからね、高齢化してしまうと。やはり古紙屋さんは有価が頼りではないですか。だからやはり工場へ入って圧縮とかで勝手に5円とかつけられてしまう、非常に苦しい仕事をやらされているけれど、きちんとしたコストをもらう、という事が大事でしょうね。

古紙屋の仕事の価値を示す

畑 我々は古紙をプレスする会社だから、どんな形態でも、そのプレス代をしっかりと貰うのに、これからやはり啓発活動をしていく。

紙は専ら物で、集めて取り扱う事自体に許可は要らない。誰でも出来るわけだから、それではどうやってお金を貰うのか。プレスしたり選別したりだとか、独自の考え方で5円とか10円とかもらう、そういう流れにもっていかなければ、数量が少なくなった時に利益が出なくなってしまうのでは、と思います。現状ではとりあえずやっていますけれど。

藤川 皆さんからご意見を頂いたなかでは、回収コストの見直しだとかヤードとしての運賃。これも取り組んでいかなければいけない。そのなかでこのコスト問題というのは、はっきりしてくるのではと思います。ただし、それを皆で守っていこうね、というだけではなくて、支部会を通じて組合員の皆さんの熱意をアップする、



との認識をもって本当に進められるかどうか、が一番問題な訳です。

*

——最後にこれまでのまとめ、言い足りないことを。

藤川 先ほど経営革新が一番「仕事をして終わり」になっていると言われましたが、「本来あるべき姿」、前出のパーパスにあるような、あるべき姿になる各委員会を模索していかなければならない、という事は今日実感しました。

業界横断で休日の改善を

——経営革新委員長の新井さんは。

新井 まだ努力すれば何とかなる事はある、と思います。その意味で先ほどの回収業界のコストの話で…我々も回収業になってきていますが…、土曜日・日曜日・祝日やGWや正月もあるのに、365日同じコストで回収しているのはおかしい。他の回収も産廃さんも同じ様にやっていますが、私たちが連携していけばそうした部分は変えられる。先ほど管理会社の話題が出ましたが、彼らも皆同じコストでやらされていて、管理会社のさじ加減一つで本当に変な日にばかり苦勞してやっている、という事もあり得るので、その辺のコストは、もう一寸主張すれば取れる。特に今年の場合は2024年問題もあって、運送業界で割増的な価格設定をしてやっているなかでは、私達もそっちの流れへ乗っていかねばならない。業界横断してやっていくのが大事だと思います。その意味でも外部団体へ

の渉外活動の役割が大きい、という話をしました。そうなれば求人でも人も集められるような業界になっていくのではと思います。

——業界横断的にやれば、廃棄物やリサイクルに関わる会社全体に恩恵のある事であるし、それを古紙業界が率先してやれば、テリトリー争いではないところで協調できる可能性があります。

——安全防災委員長の大久保さんは。

大久保 関東商組の安全防災委員会でやっていることを今後は各地の単組へ、ひいては全原連への活動としてしっかり継続していく。最後は古紙業界が無事故で安全となる、これは当委員会の最大の目標ですから、達成できるようにやっていきたいと思います。

——需給委員長の畑さんは。

畑 今後も皆さんと共に、この古紙業界を継続できる業界にするために、これから一つ一つ皆さんと話し合いながら、少しでも我々の業界が必要とされるような役割をしっかりと確立していくために、試行錯誤をして役割を見つけ、皆の仕事を助けて、理事長とも話をして対策を実施できるような組合体制にしていければと思います。

——需給としてさまざまな情報が集まるかと思いますが、それも含め、理事長と協力して組合を進めていく、そんな形で活動されていけばと思います。

労務問題に強くなろう

——渉外広報委員長の斎藤さんは。

斎藤 人には得意・不得意があると思います。そこで今日、藤川さんとのお話のなかで「人口減により人手不足が進む」ということが挙げられましたが、組合に出てくる人は営業に強い人が多くて、恐らく人事とか労務や採用に関しては得意じゃない人が出てきていると思うのです。

しっかりと給料を上げていくとか、福利厚生もするとか、そうした労務対策も含むのですが、そういう委員会を作ってそういう事に得意な人が出席してくれる業界にしていけないと変わっ

ていかないのかな、と思っています。

人事や労務系の取締役の人の発言力が会社のなかで強くなっていかないと、いつまでたっても値段とか輸出とか、会議でそんな話ばかりになる。賃金をあげようとか採用をどうしよう、とか、働き方改革で雇用を延長して60歳70歳でも働けるようにしようとか、そういった問題には全然行かないのです。けれども会社なのだから、労務の人はしっかりいると思うんです。そういう人が、集まって話せるような会があったとしても良いのでは。

藤川 まさに経営問題じゃあないですか。

——組合としての経営、仕事の問題ですね。

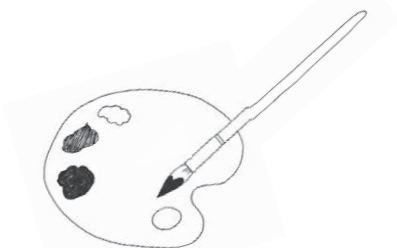
斎藤 人がいないから仕事ができない。「古紙がないから」と言うより「人がいないから」というのも本当に課題だと思っていて、そういう委員会があっても良いのではないかと思います。

藤川 そういう意味で新井さんの責任は重い。

新井 経営革新でも労務問題はよく取り扱っていました。2022年から働き方改革で残業時間や、パートさんの週何時間働く人はちゃんと保険に入るとか、そういった事を当社も順次やっていきましたが、委員会内で議論をしたのは「これからは労務問題に無頓着な会社はダメだよ」と。これはもう業界問わずダメだよ、中小企業でこの2022年ぐらいで変わった事に全然無感覚ではと。経営革新のメンバーには畑さんもいらしたし、いつもそういう話をしていましたね。

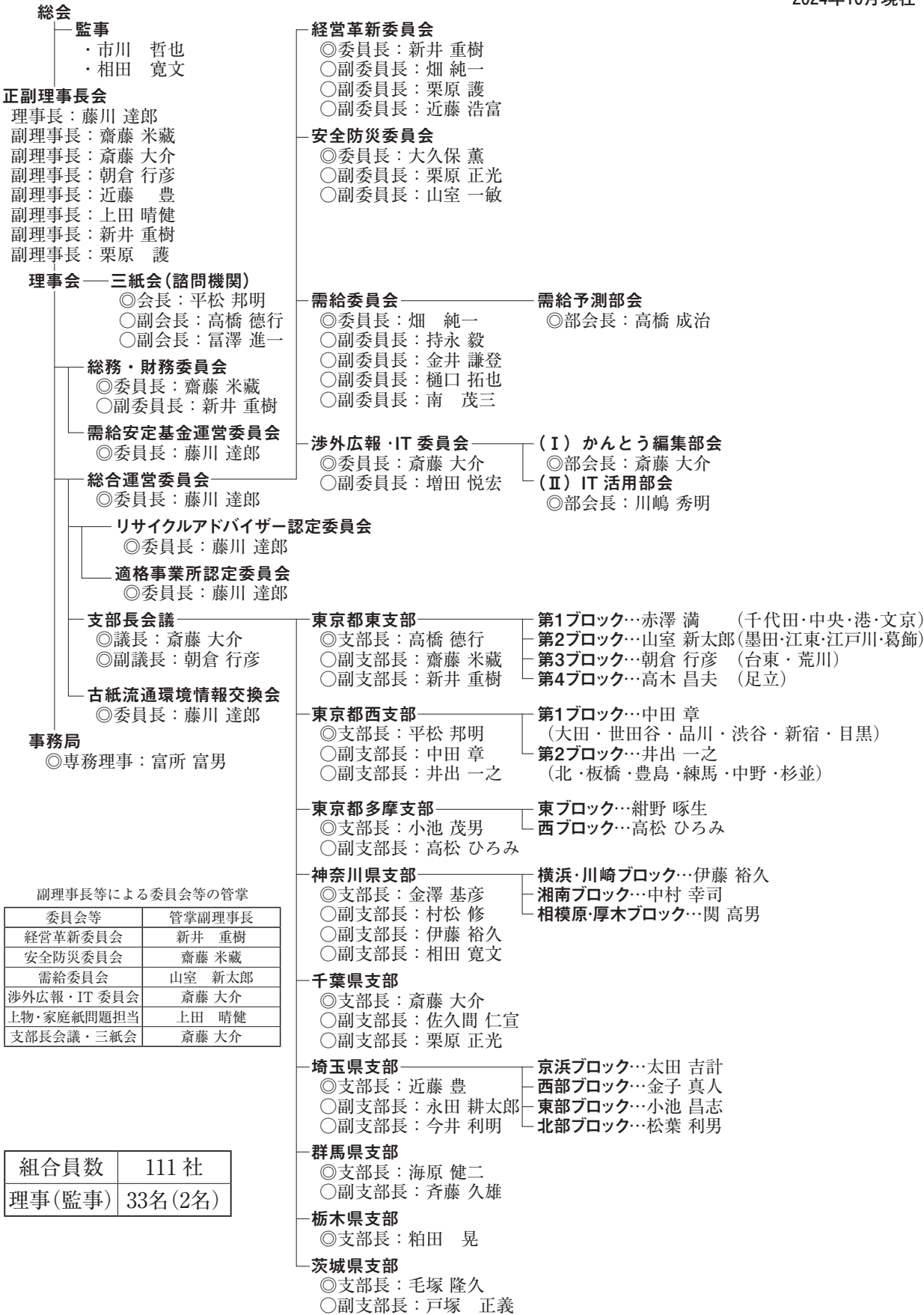
——問題意識は確認出来ていて、後は組合の運営としてどうするかが課題だと思います。今後色々な検討が進められ、来年度から本格的に改革が進むという事で、その展開に期待しています。本日はありがとうございました。

〔概要は紙業タイムス10月1号に掲載されました〕



関東製紙原料直納商工組合 組織図【支部・近代化推進事業および外部委員会】

2024年10月現在



特集Ⅱ

古紙屋の現場で働く女性の
座談会

ドライバー
構内作業
重機作業者



報告者：(株)大久保 大久保 薫

コストカット、人手不足の中どうやって人材を集めるか、人手が少ない環境だと安全につながらない。女性活用をはじめ多様な人材を確保するために、どのようにすれば働きやすい環境になるか、現場で働く女性の意見を聞きたく企画いたしました。

日時：令和6年7月10日 13:30 - 16:00
参加者：(株)新井商店・(株)大久保・(株)久米川紙業
栗原紙材(株)・(株)斉藤英次商店 合計6名
ファシリテーター：(株)大久保 大久保薫
(株)久米川紙業 吉浦亜矢子
会場：ゲートホテル雷門

Q；どんなところに惹かれてこの仕事についたか？
A；身体を動かすのが好き。車の運転が好き。
リフトの経験があった。人から勧められた。
福利厚生（土日祝休み）が自分の希望と合っている。体力では勝てないけど重機運転なら勝てると思った。

Q；仕事で怖い・危険と感じるところはあるか？

A；構内のリフトが危ない。

Q；どうしたらもっと働き易くなると思うか？

A；時間の融通がきくと良い。土日祝休み。突発の休み、早退に対して快く対応してもらえる。お互い様の気持ちを持つ。トイレは男女別。（出来れば二重扉。入りづらくなく、音等も気にしなくていい）更衣室は男女別。免許取得制度。

Q；その他意見

A-1；求人では軽作業とあったが軽作業ではない（求人で書いてあった内容と違う）



座談会の参加者8名

- A-2；求人女性の写真があったけど女性がない（求人で書いてあった内容と違う）
- A-3；構内リフト作業とのことだったが、何でもやらされる（求人で書いてあった内容と違う）
- A-4；長期休暇有りとあったけど、有給利用での長期休暇だった（求人で書いてあった内容と違う）
- A-5；日曜は絶対休みたい（子供もいるので）
- A-6；面接の時に「男性しかいない」と言われてダメだと思った
- A-7；「やめたければ、やめれば」なんて発言を聞いたことがある（パワハラ？）
- A-8；大きな声で粗い口調で言われると怖く感じる（パワハラ？）
- A-9；つきまとい、メール等、気持ち悪いことをされた聞いたことがある（セクハラ？）
- A-10；ハラスメントについて、上司が男性だと相談しにくい
- A-11；男女平等とはいっても、力の差、性差は確実にあるので、本当の意味で平等に

はなれない。だからこそできること（強み）を探して仕事しているのに、同じ給料もらってるんだから同じことをやれという雰囲気がある

- A-12；女子はズルいと妬まれる
- A-13；力がないことや休みなど、カバーしてくれる男性同僚がいて助かる
- A-14；早出・遅出・残業・有給等配慮してもらっている（配慮でなく当たり前にとれるといい）
- A-15；男性なら1回ですむ搬出が2往復しなければならない時もある
- A-16；社歴が浅いのに、もうできるでしょと何でもやらされる
- A-17；生理等、女性特有の体調への理解が少ない
- A-18；トイレがあっても和式や洋式でも立ってする男性がいて配慮がない
- A-19；トイレの場所もすぐ隣に机があるところ等、トイレに入っていることがわかると入りづらく、入らないようにしてしまう
- A-20；トイレの中で、個室と男性専用になっていると出るに出られず困る
- A-21；日焼けが気になる。化粧が落ちて見せられない。美容手当なんかがあれば、女子が増えるのでは？
- A-22；暑さ対策（空調服等）
- A-23；やっぱり重労働で疲れる
- A-24；免許・経験がないので、軽トラ・2トン・3トン・・・とスモールステップできれば長く続くのでは？（最初から4トンを求めない）
- A-25；タバコを吸うのは構わないが、匂いがつくので、窓を大きく開ける等の配慮をしてほしい
- A-26；毎日車輛が違うので、清掃等しない人がいるのが気になる
- A-27；ゴミ屋ではないのに、ゴミ屋といわれるのが嫌
- A-28；リサイクルしてこうなる等、社会に役立

っていることを全面に出したほうがいい。
(資源回収という業種が知られていない)

A-29; 他業界でもトラックに乗っている女性
が増えているが、時間の拘束や始業前作
業が多いようだ。この業界はそんなに残
業もないし、始業前作業もないので、本
来ならもっと女性が増えてもいいはず

A-30; この仕事は楽しい!



ブルガリアローズアフタヌーンティ

ブルガリアローズアフタヌーンティを楽しみ
ながら、皆さん、あっという間に打ち解け、時
間が足りないほどの座談会となりました。また、
最上階テラスからの眺望やお土産も喜んで下さ
り、楽しい時間を過ごすことができました。

早速、参加者より「いざ始まってみると会社
は違えど共感できる話や仕事へ対しての他の方
の考え方などが聞けてとても良かったです。そ
の他でも仕事から離れた話も沢山の楽しいひと
時を過ごせました。」「定期的にこのような時間
を作って欲しい。」と連絡をいただきました。

このような現場で働く人たちの交流の場として
第2弾・第3弾……と企画できると、業界をあ
げて益々女性の活躍が推進できると思いました。



お土産の LISZT のチョコレート

新聞雑誌選別、さらに革新。

紐切装置付選別コンベヤーライン

ヤードスペースに合わせ、自由にレイアウト。

営業品目

- 各種破袋装置
- 古紙梱包機投入用コンベヤー
- 空カン・空ビン選別コンベヤーライン
- 各種シュレッダー投入用コンベヤー
- 再生資源産業用各種コンベヤー
- 各種省力機械設計・制作



株式会社 拓己技研

〒444-0937 愛知県岡崎市島坂町字川田5番地3
TEL (0564) 64-3692 FAX (0564) 64-3693

デジタルロードセル式トラックスケール

高精度・低価格・短納期 5t～100t 各種計量管理システム

鎌長製衡株式会社

<http://www.kamacho.co.jp>

本社・工場	TEL(087)845-1111(代)	FAX(087)845-7442
東京支店	TEL(03)3243-2080(代)	FAX(03)3243-2081
大阪支店	TEL(06)6339-0131(代)	FAX(06)6339-0139
名古屋支店	TEL(052)586-1451(代)	FAX(052)586-1467
九州支店	TEL(092)281-5328(代)	FAX(092)281-3822
中四国支店	TEL(087)845-1140(代)	FAX(087)845-7442

こづか株式会社
代表取締役社長

こづか 小塚
ごう 豪



新社長 紹介



関東商組の皆様、いつもお世話になっております。2023年10月24日に先代の代表取締役社長の小塚敏文が亡くなり、2023年10月26日付で、こづか株式会社の代表取締役社長に就任いたしました小塚豪と申します。

弊社は1956年1月1日に静岡県吉原市にて小塚貞晴商店として創業。(小塚貞晴は私の祖父になります) 1972年横浜市に先代の父である小塚敏文が横浜営業所を開設。1976年株式会社小塚商会に改組。1992年4月14日にこづか株式会社を設立し、営業継承。2009年に現在の都筑区川和町に本社移転し現在に至ります。

私自身は大学卒業後にIT系の企業で15年ほどサラリーマンをし、その後農業をやったりして、長男でありながら兄弟の中で実家の仕事に一番携わっていなかったと思います。

2020年9月にこづかグループの有限会社大興資源に入社し、富士営業所と清水事業所で仕事をしていました。まさか父が亡くなる3年前に私が大興資源に入社して、会社を継ぐことにな

ると思ってもみませんでした。人生とは分からないものです。

父は晩年組合等の会合にはあまり顔を出さなかったみたいですが、私は積極的に顔を出して、勉強させて頂こうと思っています。組合で色々な方と話をし、ドライバー不足の問題や高齢化、毎年少なくなっていく古紙の回収量。

その少ない古紙を同業者で取り合っている状況のなか、皆同じような悩みを抱えているのだと痛感しました。何か新しい取り組みはできないものかとも日々考えております。

代表取締役社長に就任してからまだ1年も経っていませんが、回収作業の効率化を図り、組織の再編等、少しずつ色々変えてきました。もしも父が生きていたら、私が進めていることは怒られるだろうなと思いながらも、私は自分なりに会社を良くしようと励んでおります。

この業界でまだまだ未熟な私でございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



三紙会 TWEET 物 価

株式会社 國光
やまぐち すなお
山口 直

(株)國光 山口と申します。宜しくお願いします。
「物価」なるお題を頂きました。

自分は大食漢なのですが、生命を維持する為、
勤労する為、日々のストレスを解消する為など
など、何か理由をつけ齢50を超えても食欲は衰
えることはなく毎日たくさんの食物を口にして
います。

エンゲル係数が下降したことはなく、堅調に
も右肩上がりの状況は物価の上昇も要因の一つ
かと考えます。

幸い今の今まで、健康診断でひっかかること
はなかったですが医療費も高くなっていると聞
き及びますので、これ以上ボデーがわがままに



ならない様に食事に気を付け、健康とエンゲル
係数の維持に努めようと思います。

多少こじつけではございますが、物価は我々
の生活に影響があります。まさに経済の実態を
映す「鏡」ですね。



株式会社 金澤紙業
いちはら なおき
市原 直紀

今回のテーマが『物価』という事で、毎日の
ように色々なものが上昇していく物価。

良く耳にするのが食品値上げ〇〇月から何品目
である。工夫して節約をしなければと考えるが、
古紙問屋という立場でも消費者の買い物行動が
変化して梱包資材の段ボールが出にくい状況に
なってしまうので数量の事をつい考えてしまう。

また、私が毎日飲んでいるコーヒーは値上が
りする品目の中でも特に値上げ率が高いようで
憂鬱になってしまいますが、何とかこの値上げ
の波を乗り越えて行きたいなと思っております
(笑)。

の後記



編集人

働き方改革、賃金アップ、休日数増など、矢継ぎ早に手を打っていますが、人手不足が続いています。

明和製紙原料、小六信和さんがお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。小六さんは、人を大事にする姿勢を貫いていました。

私たち広報委員は2017年に小六さん取材しています。従業員さんの休憩所の小さな本棚に、森信三 修身教授録がおかれていました。「森信三先生の本がありますね。」と言いましたら、小六さんは、「それはよく勉強をされていますね。」と返されました。それにしても、なぜ社員さんの休憩所に置いていたのでしょうか。

現代の人手不足に直面する経営者にとって、「修身教授録」に書かれた教育者の姿勢から学べることは多くあります。特に第2講の冒頭、先生が静かに教室に入り、丁寧に礼をされる場面が印象的です。この礼は形式的なものではなく、相手への深い敬意と教育の場への真摯な姿勢を象徴しています。その後、静かに講義が始まる様子は、教育への情熱と真剣さが感じられ、経営においても、相手に対する敬意と真剣な取り組みが重要であることを教えてください。

小六さんが「従業員」という言葉を嫌い、代わりに「社員さん」と呼んだ姿勢も、単なる労働力ではなく、対等なパートナーと

して尊重していたことを表しています。「従業員」は主従関係を示す言葉であり、経営者は社員を従わせるために存在しているわけではない、という小六さんの考え方は、多くの経営者が学ぶべき姿勢です。

また、森信三の言葉、「教育とは、流れる水に文字を書くような、はかない仕事だが、それを岩壁にのみで刻むように真剣に取り組むべきだ」という考えは、私自身に深く響きます。この言葉が響くのは、労働市場の流動化に直面する経営者の苦悩と重なるからです。

人材の流動性が高まり、転職はするもの、となった今、どれだけエンゲージメント向上に努めても、労働の流動性を求める人々に対しては、その効果が限られるかもしれません。しかし、どんな状況でも真剣に社員さんと向き合い、尊重し続けることは、経営者として揺るぎない姿勢を保つために必要だと感じています。休憩所の小さな本棚に置く、小六さんの意図を考えてみたいと思います。

(編集人／斎藤大介)

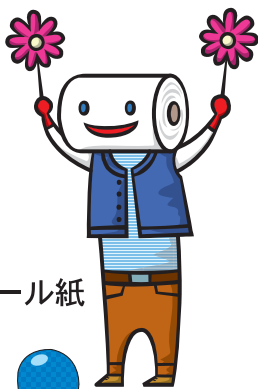


安全EXPO

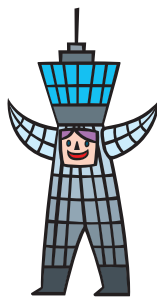
広げよう 安全の輪



太陽の塔



ロール紙



通天閣



葉っぱ



その他



本



たこ焼き



木（紙材料）



新聞紙

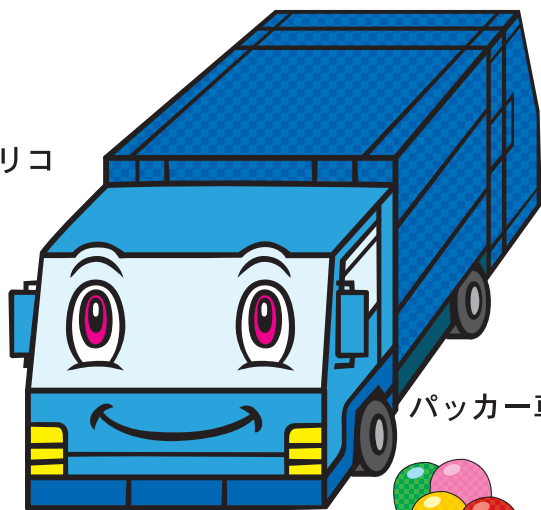


段ボール



グリコ

たこ焼き



パッカー車



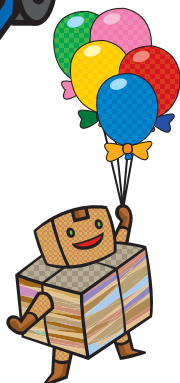
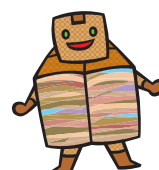
食い倒れ太郎



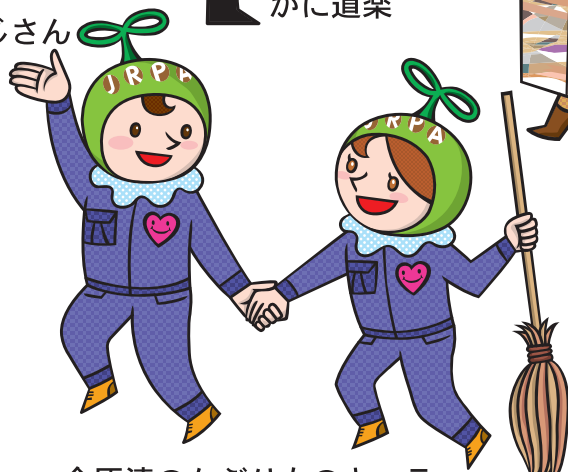
かに道楽



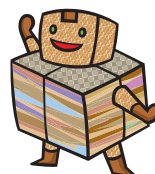
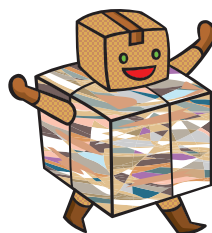
紙まとめ



安全おじさん



全原連のかぶりものキャラ



ビリケン





安全EXPO

広げよう 安全の輪



全国製紙原料商工組合連合会